

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科) 《全学的な視点》	
中項目	6.4 成果	
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。	
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学位審査の流れを学生に明示し、透明性・客観性を確保する。	→学位論文の取得要件の明示(論文数、筆頭著書の有無等)、リポジトリ等での学位論文の公開、学外審査委員の登用	C	C			
2. 学生に研究進捗状況を自己管理させる。	→研究の進捗状況に応じた中間発表の実施	B	B			
3. 長期的な視点で大学院満期退学、修了後の進路把握を行う。	→進路状況調査	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 大学院における学習成果測定の評価指標の開発には至っていない。卒業後の評価については、キャリアセンターによって大学院修了生の進路調査を実施する方向が固まり、今後の成果を待ちたい。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。 (説明) 学位授与に関しては、複数審査体制をとっており、客観性を確保している。また、学位授与においては学位取得プロセスモデルを学生に明示し、適切に審査を進めている。専門職学位課程においては、修了要件を学生に明示し、客観性を確保している。
その他	

### 《評価指標データ》

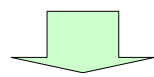
各学部における学生の進路状況  
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数  
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合  
 在学生のうち「この大学で人生の一時を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率  
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数  
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数  
 3年卒業の適用者数  
 ジョイント・ディグリーの授与者数  
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

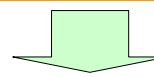
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

&lt;評価専門委員会の評価&gt;

【学外委員】

○特になし

【学内委員】

○院修了後の進路不安が、院進学への抑要因の抑制要因の一つとなっている現状を踏まえると、修了後の進路調査の実施は有意義でしょう。

○大学院における学習成果測定の評価指標の開発が困難であり、まだ未開発であるということは理解できます。しかし、学習成果と大学院修了生の進路調査との直接的な関係はないと思われます。また、小項目6.4.2については具体的な説明が必要です。

○「大学院における学習成果測定の評価指標の開発には至っていない。」とのことですが、次年度に向けた改善方策は立ててないのでしょうか。

○学院における学習成果の測定や評価指標の開発は、改善すべき事項へ記載が必要ではないでしょうか。

○学位審査および修了認定の適切性について不断に検証されることが必要でしょう。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。  
・各研究科、専攻ごとの学位授与数のデータは大学基礎データにありますが、学位授与率のデータはありません。授与率を調査し課程制の大学院に相応しい内容となっているかの考察が期待されます。

・掲げられた目標について、現状説明として説明をお願いします。

・学位審査の仕組みは必ずしも周知のこととはいえません。したがって、それを周知・徹底させることによって透明性を高めることは必要です。客観性は保たれています。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 追加記述なし。